

「環境保全の取組」に関するアンケート実施報告

三重県では、環境保全の取組の基本的な方向や理念を示す環境基本計画を策定中です。この計画の策定の参考とするため、「環境保全の取組」に関するアンケートを実施いたしました。

アンケートにご協力いただきましたe-モニターのみなさんにお礼を申し上げますとともに、アンケートの実施結果を、下記のとおり報告します。

同アンケートの内容及び回答集計については、e-モニターのホームページ（下記リンク先）をご覧ください。

<<http://www.e-kocho.pref.mie.jp/monitor/index.html?a=top;result&id=78>>

なお、各項目のパーセンテージについては、四捨五入しているため、合計が合わない箇所がありますので、ご了承ください。

記

アンケート概要

アンケート実施期間

平成22年6月30日から平成22年7月12日まで

意見募集の結果

対象者数 1,367名

回答者数 951名

回答率 69.4%

回答者属性

性別【男性】519名 54.6% 【女性】432名 45.4%

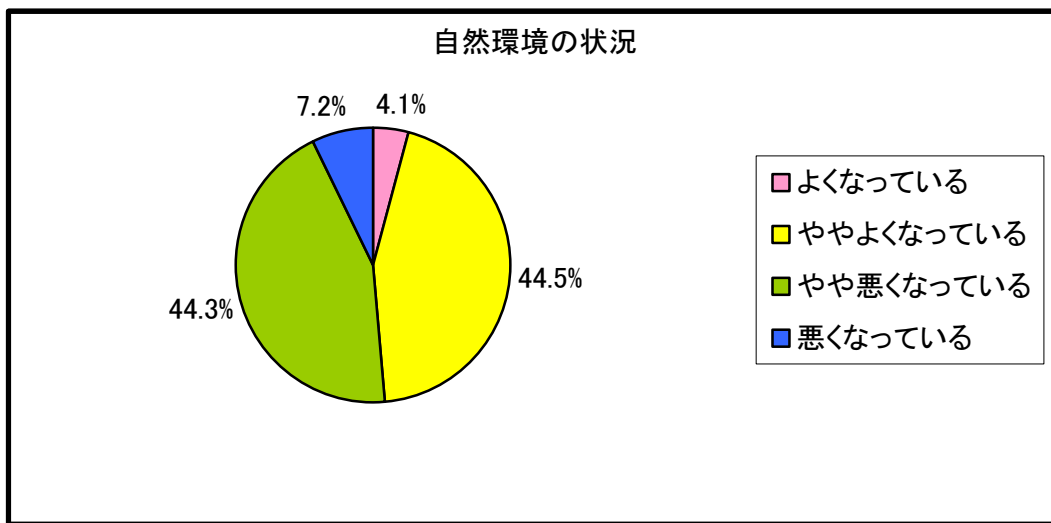
年代

20代	30代	40代	50代	60代	70以上
90	209	255	199	144	54
9%	22%	27%	21%	15%	6%

アンケート結果を受けて

【設問 1】 自然環境の状況

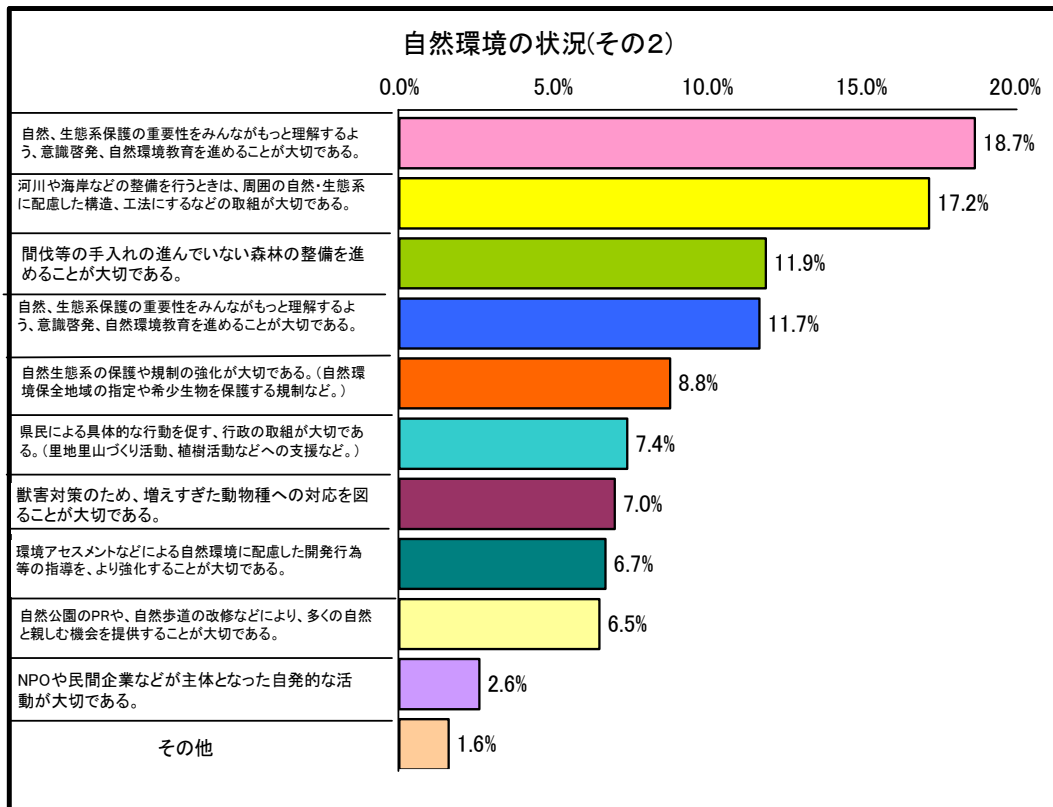
三重の自然環境についてどのような実感をもっているかお聞きしたところ、「よくなっている」、「ややよくなっている」と答えた方の合計は 48.6%となっています。一方、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」と答えた方の合計は 51.4%となり、良いと感じる方と悪いと感じる方がほぼ同数となっています。



【設問 2】 自然環境の状況（自然環境を良くするために大切な取組）

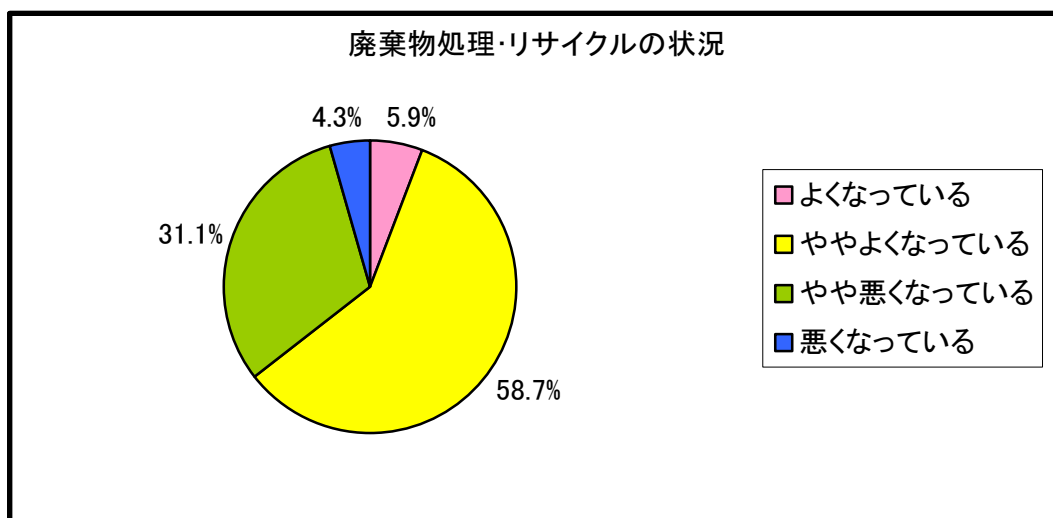
設問 1 で「やや悪くなっている」、「悪くなっている」と答えた方に自然環境を良くするためにどんな取組が大切かお聞きしたところ、「自然・生態系を守るためのルールなど、具体的に周知することが大切である。」と答えた方が 18.7%、「河川や海岸などの整備を行うときは、周囲の自然・生態系に配慮した構造、工法にするなどの取組が大切である。」と答えた方が 17.2%となっています。

※新しい環境基本計画では環境保全のための基本的なルールなどを普及啓発するため「移入種の取り扱い」に関する普及啓発や環境保全の大切さを伝えるための「環境学習・環境教育の推進」を取組の方向として検討しています。また、河川、海岸等整備に際しては生物多様性の保全に配慮した工法の採用等を取組方向として検討しています。



【設問3】 廃棄物処理・リサイクルの状況

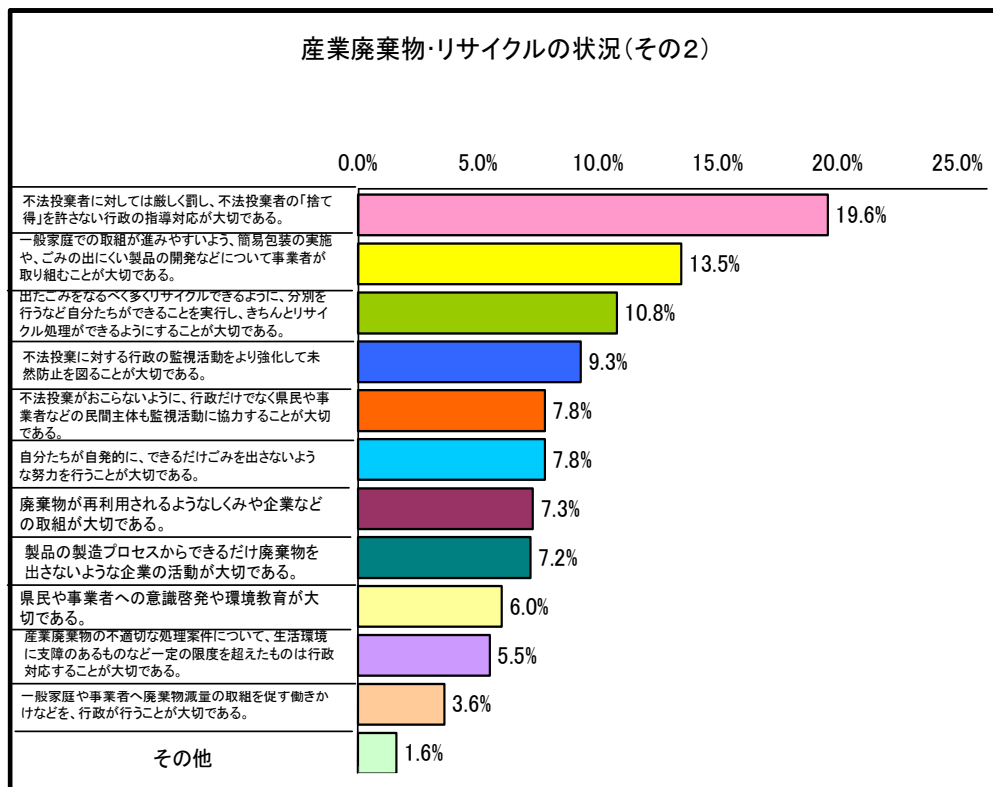
廃棄物の処理状況などについてどのような実感をもっているかお聞きしたところ、「よくなっている」、「ややよくなっている」と答えた方の合計は **64.6%** となっています。一方、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」と答えた方の合計は **35.4%** となり、良いと感じる方が6割となっています。



【設問 4】 廃棄物処理・リサイクルの状況（廃棄物処理の状況を改善するための取組）

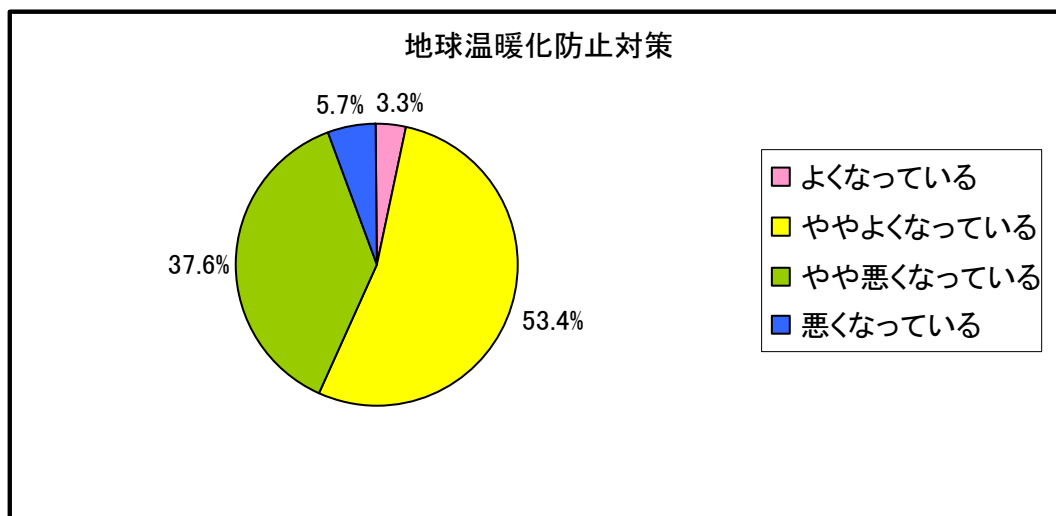
設問 3 で「やや悪くなっている」、「悪くなっている」と答えた方に廃棄物の処理状況などについて、状況を改善するためにどんな取組が大切かお聞きしたところ、「不法投棄者に対しては厳しく罰し、不法投棄者の「捨て得」を許さない行政の指導対応が大切である。」と答えた方が 19.6%、「一般家庭での取組が進みやすいよう、簡易包装の実施や、ごみの出にくい製品の開発などについて事業者が取り組むことが大切である。」と答えた方が 13.5% となっています。

※新しい環境基本計画では、産業廃棄物の処理に関して「排出事業者責任の徹底と違法行為者に対する法に基づく厳正な対処」を取組方向として検討しています。また、ごみ排出量削減のため、「環境に配慮した事業活動の促進」を進める取組方向を検討しています。



【設問 5】 地球温暖化防止対策

地球温暖化防止の状況などについてどのような実感をもっているかお聞きしたところ、「よくなっている」、「ややよくなっている」と答えた方の合計は 56.7% となっています。一方、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」と答えた方の合計は 43.3% となり、良いと感じる方が若干多くなっています。

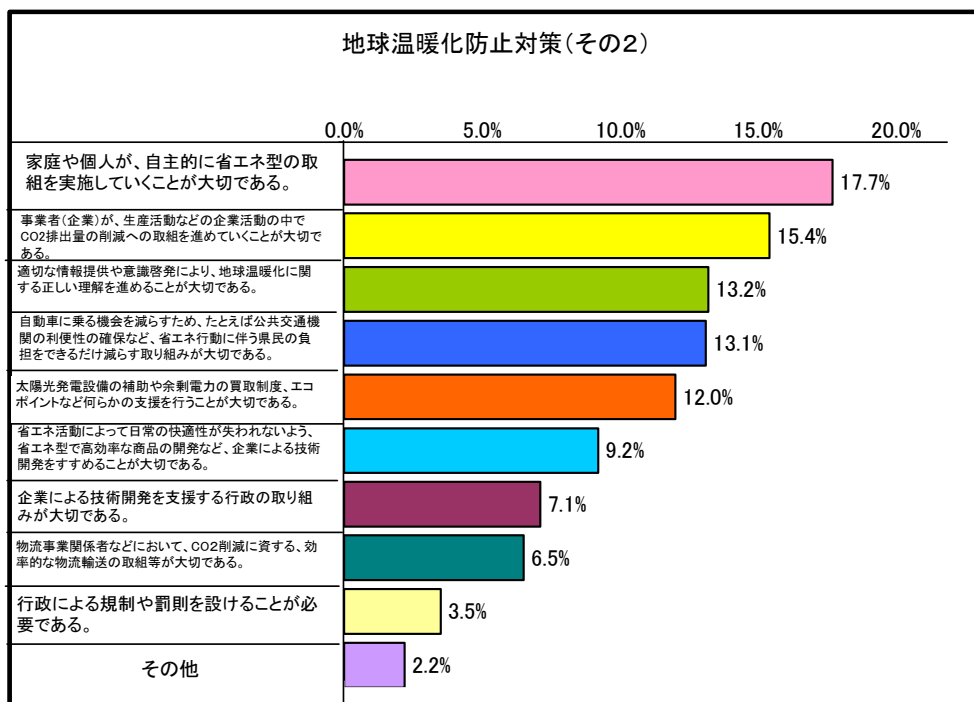


【設問 6】 地球温暖化防止対策

(温暖化防止の取組をより進めるためにはどんなことが大切か。)

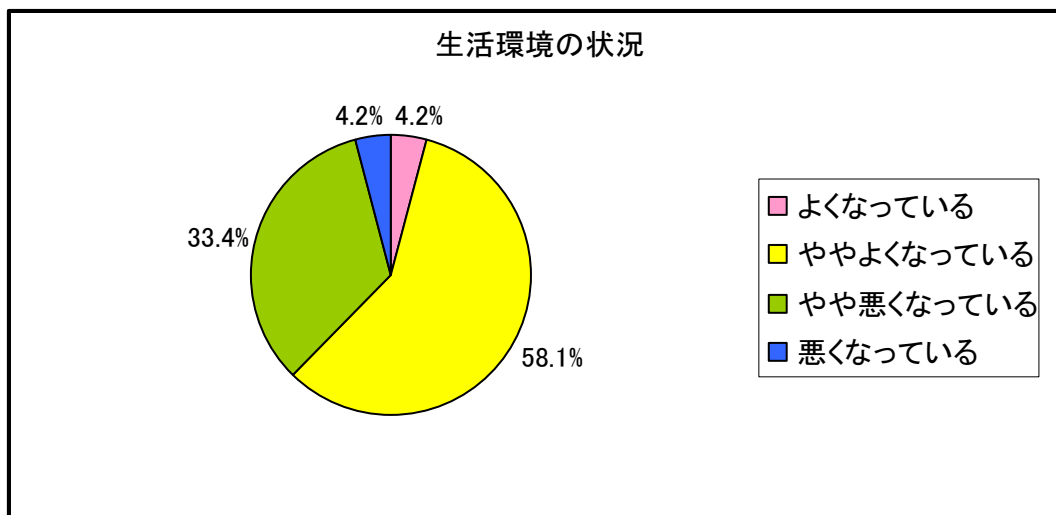
設問 5 で「やや悪くなっている」、「悪くなっている」と答えた方に家庭や企業において温暖化防止の取組をより進めるためにはどんな取組が大切かお聞きしたところ、まんべんなく回答がありましたが、全体としては家庭や企業を問わず省エネを推進することや CO₂ 排出量の削減取組を進めることが必要だと答えた方が多くなりました(合計 33.1%)。また、適切な情報提供や意識啓発により、地球温暖化に関する正しい理解を進めることが大切だと答えた方も 13.2%ありました。

※新しい環境基本計画では、「地球温暖化の防止」に関して県民のみなさんをはじめ、企業や NPO などあらゆる主体による自主的な取組を促すしかけや仕組みづくりに取り組んでいく考えです。また、環境の状況や環境保全の大切さを伝えるための「環境学習・環境教育の推進」や必要な指導者の育成についても取り組む方向で検討しています。



【設問7】 生活環境の状況

大気や川、海、生活環境における騒音・振動などの状況についてどのような実感をもっているかお聞きしたところ、「よくなっている」、「ややよくなっている」と答えた方の合計は62.3%となっています。一方、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」と答えた方の合計は37.6%となり、良いと感じる方が6割となっています。

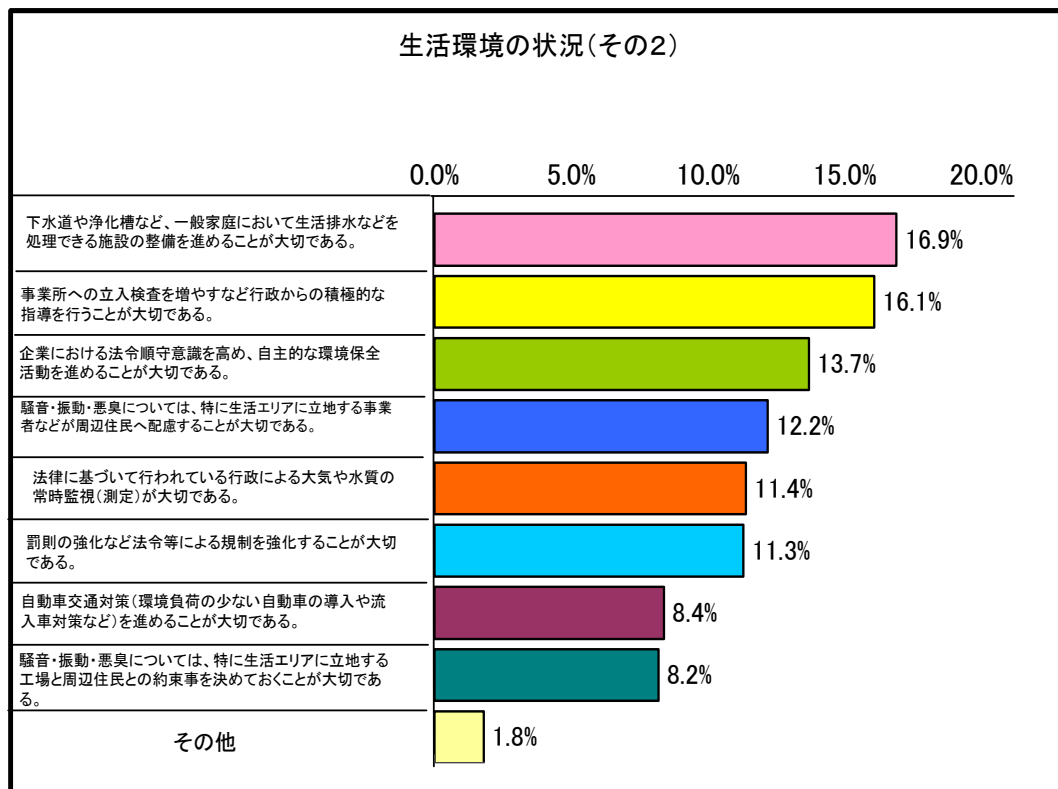


【設問 8】 生活環境の状況

(よりきれいな空気や水に恵まれた快適な生活環境を守るためにどんなことが大切か。)

設問 7 で「やや悪くなっている」、「悪くなっている」と答えた方に、よりきれいな空気や水に恵まれた快適な生活環境を守るためにどんなことが大切かお聞きしたところ、おおむね全項目にわたりまんべんなく回答がありましたが、生活排水処理施設（浄化槽、下水道）を推進することや、行政が行う立入検査による積極的な指導、企業の法令遵守意識を高め自主的な環境保全活動を進めることが必要だと答えた方が多くなりました（合計 46.7%）。

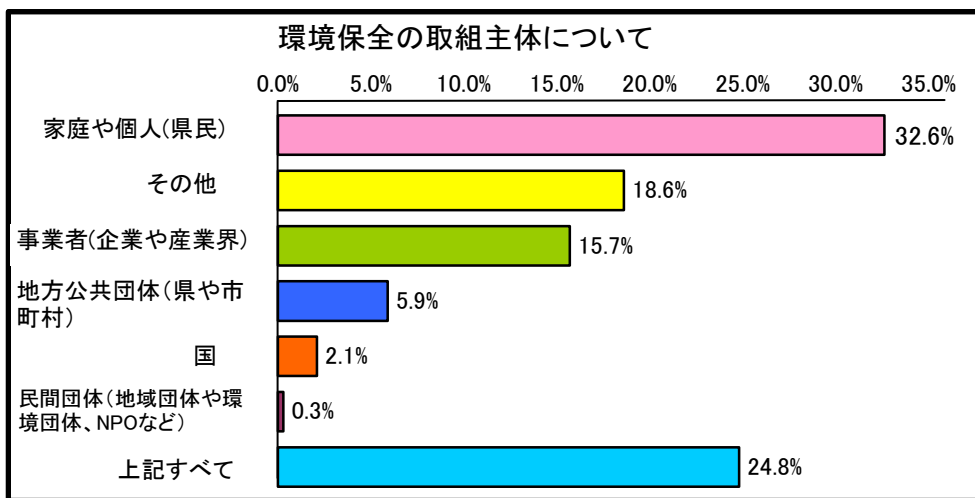
※新しい環境基本計画では、生活排水処理対策を一層進めるための効率的・効果的な施設整備や、工場事業場に対する立入検査の充実、事業者の法令遵守の徹底を取組方向として検討しています。



【設問 9】 環境保全の取組主体について

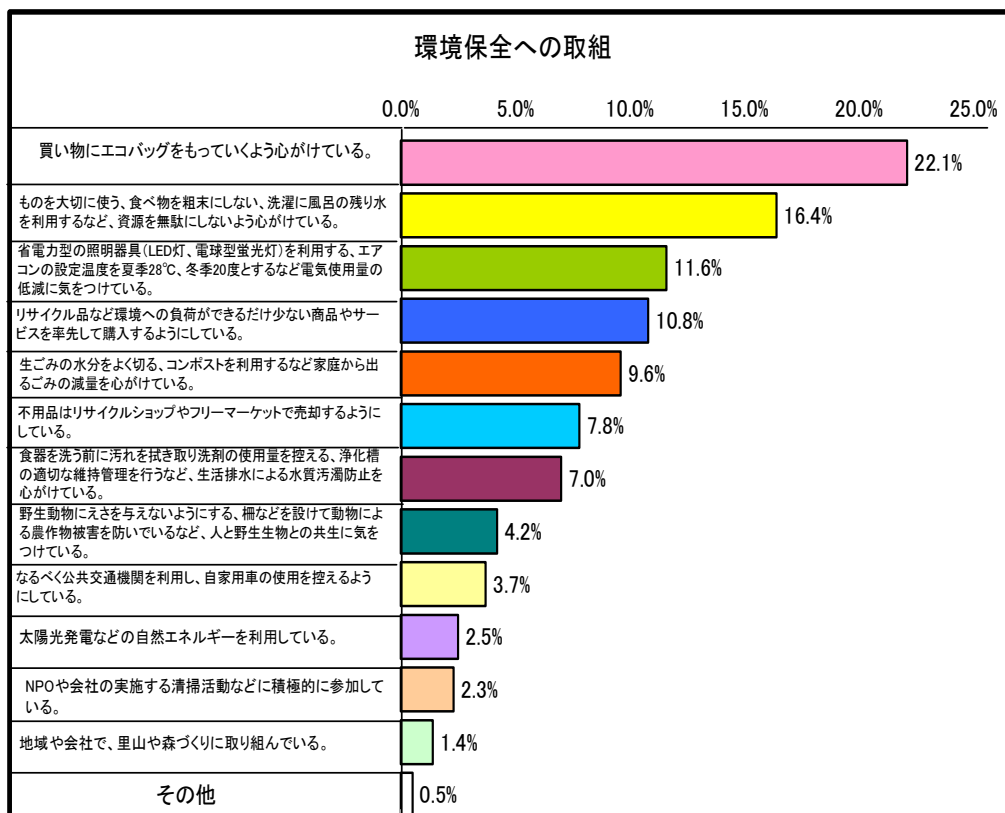
環境を守るうえでもっとも重要な役割を担っているのはどの主体だと感じているかお聞きしたところ、「家庭や個人（県民）」と答えた方が 32.6%で一番多く、次に「すべての主体」と答えた方は 24.8%となっています。

※環境保全の取組は県だけで行えば足りるものではなく、県民のみなさんをはじめあらゆる主体の理解と行動があってはじめて進むものであることについて、みなさまに十分ご理解をいただいていることを改めて実感させていただきました。



【設問 10】 環境保全への取組

環境保全の取組で、現在取り組んでいる、または、今後やってみたいと思っていることがあれば教えてくださいとお聞きしたところ、「買い物にエコバッグをもっていくよう心がけている。」と答えた方が 22.1%、「ものを大切に使う、食べ物を粗末にしない、洗濯に風呂の残り水を利用するなど、資源を無駄にしないよう心がけている。」と答えた方が 16.4%となりました。この結果をもとに、みなさんが取り組みやすい環境保全行動を考える際の参考にしたいと考えています。



そのほか、様々な個別意見をいただきありがとうございました。貴重なご意見は計画策定の参考とさせていただきます。

なお、10月中旬以降に新しい環境基本計画の中間案について、ホームページなどを通じたパブリックコメントの実施を予定していますので、具体的な計画内容へのご意見等、ぜひお寄せください。

最後に、ご協力いただきましたモニターのみなさまに改めてお礼申し上げます。
ありがとうございました。